

気持ちの表現はどこまで多様か: 物<sup>フィクション</sup>語における<避けられない状況>の質的分析  
 HOW DIVERSE ARE EMOTIVE EXPRESSIONS?: A QUALITATIVE ANALYSIS  
 OF <INEVITABLE SITUATIONS> IN FICTIONS

安部さやか, ミドルベリー大学  
 Sayaka Abe, Middlebury College

## 1. はじめに

外国語としての日本語(以下 JFL)、特に中上級レベルの授業では映画やドラマが生教材として使用されることが少なくない。その理由として、テーマやストーリーが多く、学生にとって魅力的であり、字幕なしで内容を理解できた時の達成感が大きいことなどが挙げられるであろう。また、登場人物の様々なスピーチスタイルに触れることができるという声も頻繁に聞かれる。こういった利点はこれまで筆者が行った中上級の授業においても学習のモチベーションにつながる要因として窺えたが、一方で、語彙を増やして表現の幅を広げたい、既習でもいまいち分かり難い文法を授業で取り上げてほしいなど、語彙と文法を中心に偶発的な学習を超えた積み上げを求める学生が依然として多いということも授業評価等を通して見えてきた。また、学習者の興味やニーズは様々である。筆者はこれまで少人数体制の中級と上級の JFL コースを主に担当してきたが、特に後者では、開講される度に履修者の留学経験や既習内容を考慮した上で使用教材と授業デザインを大幅に調整するケースがほとんどであった。また、履修者の中には自習用の補助教材も使用したいという学生もおり、その多くが夏休み期間などに練習を継続することを望み、楽しみながらも意識的に学べるのが理想的だという。

本稿は、こうした背景の中、授業と自律学習の両方を視野に入れ、より効率良く教材のコンテンツと言語的性質を把握できるようになりたいという動機を出発点としている。そして、2015年より大学と学生の協力を得ながら、生教材(映画やドラマ)と日本語教材の言語情報のデータ化を断続的に進めてきた。本稿の基になっている CAJLE2017 大会の発表では、アニメとドラマ計3作品を扱い、情意表現という特定の領域に焦点を当てたが、その際にまず注目したのが、話者(登場人物)が抱く心理的葛藤という概念であった。葛藤とは、つまり、何らかの出来事や前提となっているコンテクストによって、自己と他(あるいは社会)の意向が異なる場合に生じる、「したいけどできない」あるいは「したくないけどしなければならない」といった状況と捉えることができる。本稿では、後者のような、「避けられない」状況に焦点を当て、話者が遭遇する様々なジレンマと、それらに関わる情意表現の多様性を質的に探る。また、結果をもとに、より有益な物語素材の活用に向けて、場面や状況という単位をベースに言語使用を意識していくことを提案したい。

## 2. 「気持ち」の表現

感情の表現とは、日本語初級で導入される形容詞や動詞(悲しい、困る等)や擬情語(ハラハラする等)のみならず、話し手の態度や気持ちを表わす文法機能(受動構文、助動詞等)や語用ストラテジー(言い淀み等)を通して表れるもの

も含め広く捉えられる (Ochs and Schieffelin 1989, Suzuki 2006)。特に後者のような非命題的な意味の表れは日本語に特徴的であるとされ (Maynard 1993)、頻度も比較的高い一方で、談話情報や認知ストラテジーを用いて初めて意味や機能が明確になるものも存在する。日本語学習においても文法構文を通しての心情の表現には上級レベルの項目として位置付けられているものが少なくない。文法教材『どんなときどう使う日本語表現文型 500』[副題略] (友松・和栗・宮本 2010) では、「心情の強調・避けられない心情や行動」というユニットにて、～ざるをえない、～て仕方がない、～てしょうがない、～てたまらない、～を余儀なくされる他 12 の文法項目が練習問題とともに扱われている。また、三枝・中西

(2003) の『話し手の気持ちを表す表現 -モダリティ・終助詞-』では、話者の気持ちや判断を表す表現の使い分けは場面や人間関係が作用してくるとし、様々な構文を機能ごとに扱っており、中でも〈義務・必要〉を扱うユニットでは初級日本語で導入される～なければならないに加え、一般に上級レベルで扱われる～ざるをえないと～ずにはいられないの使い分けについて詳細に説明されている。

避けられない心情については、二つの相反する“力”の働きとして捉えるという認知言語学の枠組みにも基づいた考え方があり、文法機能など抽象的な概念をモデル化するツールとして用いられる場合がある (Talmy 1988, 2000, Sweetser 1990)。例えば、英語の *I have to attend the meeting* という文に表れる *have to* の構文は、ある行動や変化をもたらそうとする何らかの圧力 (例: 社会の決まりごとや期待、上司の一言等) とそれを不本意とする主体 (当事者) の逆向きの“力”とのかち合いとして捉えられる。日本語にはこのような力のダイナミクスを伴う文法・語用機能が数多く存在し、話者の主観とも密接に関わっている。人間の感情の多くも何らかの外的要因と自身の意向との競合によって起こるものと考え、ストーリーという流れの中で“相反する力”を取り出して探る作業は、情意表現を理解する上で有益であると思われる。本稿では以上を踏まえて、〈避けられない状況〉を「主体が何らかの外的要因によってある動作または変化を働きかけられ、それに打ち勝つことが難しいと考えている状況」と定義する。

### 3. 使用素材と分析対象

学習者の興味には個人差があり、日本のポップカルチャーが必ずしも日本語学習のモチベーションとなるわけではない。また、フィクションには現実の会話と異なる言語使用も少なくない。これらの点を踏まえた上で、アニメやドラマを対象としたのは、物語性のある素材には感情移入しやすい起承転結や視覚情報 (人物の仕草や表情など) など話者の主観を理解するために有益なコンテキストが豊富に存在する (馬場 2011) と考えたためである。

分析の対象として『となりのトトロ』 (アニメ映画 86 分)、『耳をすませば』 (アニメ映画 111 分) と『半沢直樹』第 1 話 (テレビドラマ 108 分) の会話部分 (歌と語りを除いた発話) を用いた。『となりのトトロ』は、家族で田舎へ引っ越してきた 12 歳と 4 歳の姉妹さつきとメイの、不思議な生き物トトロとの出会いと交流を描いていたファンタジーの物語である。舞台は昭和 30 年代の日本であるが、自然や家族を大切にする思いや新しい環境や人々との出会いなど、タイ

ムレスなテーマも扱われており、日本国内外幅広い年齢層に人気のある作品である。『耳をすませば』は、読書好きな中学三年生の女の子雫が同級生の男の子天沢に出会い、互いの将来の夢や考え方を分かち合っていくというストーリーラインが中心となっている。『半沢直樹』は、1990年代頭の大阪・東京のある都市銀行を主な舞台として始まり、銀行マンである主人公半沢が内部の不正を暴いていくという社会派ドラマである。使用した第1話は、会社が巨額の損失に見舞われ、その責任を押し付けられた半沢が、損失を取り戻すことによって解決しようとするというストーリー展開になっている。

また、比較対象として、北米の大学で広く用いられている日本語教科書『げんき I』、『げんき II』、『上級へのとびら』(=『とびら』)も用いた。『げんき I』と『げんき II』はそれぞれ12の課(LL1-12)、11の課(LL13-23)からなり、各課の冒頭で扱われる複数の会話文(計28分26秒、平均28秒)を使用した。会話文は計23課分を通して主人公的存在であるメアリーとたけしを中心に、断続的ではあるがストーリー性も多少ある。『とびら』は15の課で構成されており、各課において「会話文」(課によって討論、インタビューまたは発表)と、モデル会話と穴埋め問題からなる「会話練習」がそれぞれ数パターン扱われている。本稿では発表(ストーリーの説明を含む)を除いた「会話文」(「討論」、「インタビュー」を含む、計62分11秒、平均2分4秒)と会話練習のモデル会話(計14分55秒、平均45秒)を扱った。会話の話者の多くは複数の課で登場し、物語性はないが全15課を通して人物間の関係などは一貫しており、継続的であると言える。

以上の素材をテキスト化したものを質的解析ソフトに取り込み、第2節の定義をもとにした該当状況から、当事者(主体)による何らかの気持ち・態度が表示された会話部分を取り出し、“INEVITABLE”とコーディングした。<sup>1</sup>そして、それぞれの状況に対して話者の情意が表現されている部分を①語彙表現、②文法形式・構文、③隣接表現の3種類に分類し、それぞれ“LEXICAL”、“GRAMMATICAL”、“METONYMIC”とした。<sup>2</sup>③のMETONYMICとは、明示的に感情に言及せず、隣接する概念(感情の起因「追い詰められる」、判断「大変」、謝罪「すまない」、関節表現「それはちょっと」など)を通して話者の態度を表す表現である。隣接表現を分類に含めたのは、それらが情意表現となり得ること、また、使用表現の多様性を探る上で有益だと考えたからである。「メトニミー」という概念に関して、靱山(2014)は「2つの事物の外界における『隣接性』、さらに広く2つの事物・概念の思考内、概念上の『関連性』に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表す比喩」(2014: 152)と定義している。同書にて靱山は、「テーブルを片付ける」(=テーブルの上にあるものを片付ける)という例と「シビれる」(=かっこいい)という1950年代の流行語の例を挙げており、それぞれ、「テーブル」と「テーブルの上にあるもの」、「何かがかっこいいと思うこと」と「身震いすること」が隣接していることを指摘している。この様なメトニミーの捉え方は、歴史語用論などにおいても、婉曲表現や文法機能の発達に関わるコミュニケーションのストラテジーを説明する上で重要な概念として位置付けられている(Hopper and Traugott 1993 他)。

#### 4. アニメ・ドラマの例

『となりのトトロ』（＝『トトロ』）、『耳をすませば』（＝『耳』）、『半沢直樹』（＝『半沢』）の〈避けられない状況〉（それぞれ6例、14例、14例）の中から数例ずつ取り出し、要約したものを（1）－（3）にてリストした。（〔 〕は、情意表現の話者となる主体である。）

- (1) a. [サツキ] 友達が迎えに来て、学校に行く時間になった  
 b. [近所のおばあちゃん] 自分と家で留守番していることになっていた近所の子供（メイ）がお姉ちゃんの学校に行きたいと言って聞かない  
 c. [サツキとメイ] 入院中の母親の退院が延び、暫く待たなければならない
- (2) a. [朝子（雫の母）] 夫が翌日出勤日だと言い出し、お弁当を作る必要が出てきた  
 b. [夕子（雫の親友）] ある男の子から告白され、自分の本命であるその子の友達（杉村）を通して返事を求められている  
 c. [杉村（雫の同級生）] 夕子が自分（杉村）のことが好きなのに鈍感だと、本命の女の子（雫）から怒られた  
 d. [雫] 好きな同級生（天沢）が将来の夢に向かって進み始めているが、自分はまだ進路について何も考えていない
- (3) a. [半沢] 子供の時銀行に裏切られ、家族の会社が倒産に追いやられた  
 b. [半沢] 自分の部下（中西）が、残業として膨大な量の作業を任された  
 c. [中西（半沢の部下）] 自分が残業を任されたため上司（半沢）に手伝わせることになった  
 d. [半沢] 取引先に五億を騙し取られ損失を出し責任を取るよう言われた  
 e. [半沢] 銀行の損失の責任として謝罪を求められている

3作品の「避けられない状況」には、日常的な行動に関わるレベル（1a, 2a）から、偶発的だが話の発展にあまり関わりがないもの（1b, 2b, 2c, 3b, 3c）、直接関わるもの（1c, 2d, 3a, 3d, 3e）まで幅広く、深刻さの度合いも様々であった。

表1は、全ての該当状況に関わる情意表現をまとめたものである。

表1 <避けられない状況>に関わる情意表現（アニメ・ドラマ）

	LEXICAL	GRAMMATICAL	METONYMIC	計
トトロ	4 (1)	1 (1)	4 (4)	9 (6) [6]
耳	2 (2)	11 (5)	8 (8)	21 (15) [14]
半沢	0 (0)	4 (3)	14 (13)	18 (16) [14]
計	6 (3)	16 (7)	26 (23)	48 (33) [34]

（ ）＝異なり語（構文・表現）数、〔 〕＝状況数

全体的に、明示的な感情の言葉の使用は極めて少なく、隣接表現が比較的多い。一つの状況において、一度のみ情意表現が用いられるケースが多かったが、後の(4) - (6)にも示されるように複数回用いられる場合もあった。(表1で表現数と状況数が異なっているのはそのためである。)

語彙タイプの3例のうち、1例は(4)の『トトロ』からの例である。

(4) サツキ: メイ、お母さんの体の具合が悪いんだって。だから、今度帰ってくるのを伸ばすって。

メイ: いやだ!

サツキ: 仕方ないじゃない! 無理して病気が重くなったら、困るでしょう?

メイ: いやだ!

(4)は、お母さんの退院が延期することがわかった後の、サツキとメイ(1c)の会話の一部である。この後にもやり取りは続き、メイの「いやだ!」が2度繰り返されることになる。他2例はいずれも『耳』からである。一つは、男子学生杉村が、本命雫本人から、別の子(夕子)が自分を好きだと告げられたうえ、鈍感だと責められ戸惑っているという場面(2c)で、咄嗟に「え!? そんな、俺、困るよ」と切り返す場面である。(5)は、同じく『耳』からの場面である。

(5) 私... 私、書いてみて分かったんです。書きたいだけじゃ、だめなんだってこと。もっと勉強しなきゃだめだって。でも聖司君が、どんどん先に行っちゃうから、無理にでも書こうって。私、怖くて、怖くて...

(5)には、好きな同級生(天沢聖司)が自分の将来に向けて進み始めていることに焦りを感じた雫が、自分も夢だった作家になることを真剣に考え、小説を書いてみたという背景がある。その焦っていた時の状況(2e)を振り返りながら、自分の力不足を思い知ったことやその時の心情を天沢の祖父に打ち明けている。

文法を通して表れる心情の例では、～なきゃ(～なくちゃ)と～しまう(～ちゃう)が複数回(それぞれ6、4回)用いられている。～なきゃの用例の多くは、日常的な行動(図書館に行く、レポートをまとめる、お弁当を食べる、など)に使用されるケースがほとんどであるが、物語展開により深く関わる、比較的深刻な状況で用いられる(5)のような例も見られる。～しまうに関しては、(6)(『半沢』)のように、ある状況を自分の意図に関わらず起こったこと(3b)を遺憾に思う態度として表れる例がある。

(6) 半沢: どうだ?

中西: まだまだです。すいません。課長まで付き合わせてしまって。

中西の言葉は、上司から無謀な残業を課せられ、先輩である課長半沢も残って手伝えることになったという流れの中、発したものである。

他の、文法表現の例としては、使役受動構文、～てたまらない、～しか+否定形などがあった。

隣接タイプは、『トトロ』、『耳』、『半沢』でそれぞれ4、8、14例使用されていた。咄嗟の出来事や予定の変更に際して発した評価・判断の言葉（例：大変！、いけない、仕方がないじゃない、しょうがないことなの他、7例）と、相手に不都合を来してしまったことに対する謝罪の言葉（例：すまない、申し訳ない、悪いわね他、7例）を通して遺憾を表現するケースが半数以上を占めている。前者は独り言に近い主観表現、後者は相手に働きかける間主観的発話と言える。（7）は『半沢』の謝罪の一例である。

(7) 小木曾: あなたの無責任な審査のせいで、5億の損失が出ているんですよ。  
そのことをどう同お考えですか。黙ってないで何とか言いたまえ。  
まずは謝罪の一言あって然るべきじゃないかね？

半沢: どうも申し訳ありませんでした。今回の融資に関して、私に...私に責任の一端があることは謝罪いたします。

この会話は、銀行が巨額の損失を出してしまったことを受けて行われた半沢の聞き取り調査の一部で、次長の小木曾とのやり取りから抜粋したものである。ドラマ前半で既に同事件についてのやり取りが複数回持ち出され、半沢は別の上司から責任を取るように圧力をかけられていた。また、実際に半沢に責任はないが、同僚の友人からも、重い処分を避けるためにまずは謝罪しておくのが無難だと念を押されていたという経緯がある。この時点では、半沢はむやみに感情を出さずに慎重な受け答えを試みていると思われる。また、半沢は、以前に同じ話が持ち出され責任を問われた場面で「私が責任を持つ？」と修辞疑問を用いて反論している用例がある。

他の隣接表現の例は、ある不都合な状況を受けて、依頼・命令・懇願（例：ちょっと待ってください、もう勘弁してくれ、どうかどうか他、4例）、疑問（例：え～お弁当？、どうしよう？、私が責任を持つ？他、2例）、事実や意見の伝達としての言い淀み（例：さすがに明日の朝というのは…、あの～妹が…他、3例）、そして、状況の起因や結果となる事象を表す表現（追い詰められた、忘れない、1例ずつ）であった。

## 5. 日本語教科書の例

『げんき I』、『げんき II』、『とびら』では、計 16 例（それぞれ 1、11、4）の状況が該当した。（8） - （9）は、それぞれ数例を要約したものである。

- (8) a. [メアリー (学生)] 風邪だがテニスの練習をする必要がある (L12)  
b. [ジョン (学生)] 朝寝坊して電車に乗り遅れ、授業に遅刻した (L16)  
c. [先生] 学生が宿題をなくしたため、提出を待つ必要がある (L16)  
d. [メアリー] 買った電子辞書が不良品出会ったが、交換するには2、3週間待たなければならないと告げられた (L20)  
e. [お母さん] ホームステイしていたメアリーが国へ帰る時が来た (L23)

- (9) a. [大輔 (学生)] 急に仕事が入り、ガールフレンド (久美) と会えなくなった (L2)  
 b. [モニカ (学生)] 前日夜遅くまでレポートを書き込んで寝坊してしまい、学校に来られなかった (L2)  
 c. [中村 (学生)] 両親と自分の支持政党が違って、政治の話をするといつも喧嘩になる (L14)

教科書における「避けられない状況」は主に日常生活に関わるものが多い。  
 形式タイプごとの情意表現の使用は、表2の通りである。

表2 <避けられない状況>に関わる情意表現 (教科書)

	LEXICAL	GRAMMATICAL	METONYMIC	計
げんき I	0	1 (1)	0	1 (1) [1]
げんき II	2 (2)	6 (3)	4 (3)	12 (8) [11]
とびら	0	2 (1)	5 (2)	7 (3) [4]
計	2 (2)	9 (4)	9 (5)	20 (11) [16]

( ) = 異なり語 (構文・表現) 数、[ ] = 状況数

語彙の例は、『げんき II』の2例のみであった。一つは、(4c)の状況で遅刻をしたうえ宿題をなくしてしまった学生に、提出を待ってほしいと頼まれ、先生が「困りましたね」、もう一つは、ホストマザーがホームステイしていた留学生のメアリーが国へ帰る時が来た時に「寂しくなるわね」と言う例である。

文法を通しての情意表現は、～なきゃいけない (L12)、～なきゃ (L23)、～ちゃう (L18, 19, 20) の3例、使役受動構文が2例である。『とびら』の2例はいずれも～ちゃうで、会うはずのガールフレンドと止むを得ず会えなくなってしまったという状況 (9b) と家族と支持政党が違うので政治の話をするとう喧嘩になってしまうという状況 (9d) で用いられている。

また、隣接タイプに関しては謝罪という形での遺憾を表すタイプが大半である。

『げんき II』では4例中2例 (すみません、すみませんでした)、『とびら』では5例全て (ごめん、ごめん他4例、すみません) が謝罪の表現であった。

『げんき II』の残り2例は、相手に何かを伝えるあるいは違うアイデアを伝える際の和らげ表現 (例: ～んですが、2例) であった。後者の例として、『げんき II』の (8d) の状況で、返品はしたくないが、帰国が迫っていてやむ終えないという状況で、和らげの～んですがが用いられている。

## 6. 考察

本稿の分析対象をもとに物語素材の特徴としてまず挙げられるのは、教科書に比べ、より多様な状況が取り入れられているという点である。<避けられない状況>は第2節にて定義したように、何らかの外的圧力が関わっているものであるが、本分析対象にも、日常の決まりごと (→お弁当を作る)、ある事態を受け他人に押し付けられたこと (→損失の責任を取る)、他人の会話から察したこと

(→部下の残業を手伝う)、友達に責められたこと(→告白された相手へ返事する)、事態が自然に変わったこと(→母親の退院を待つ)など、様々な“圧力”のシナリオが見られた。『げんき I』は、初級日本語の教材として、扱われる内容が、挨拶や初対面の人との会話(自己紹介、時間を尋ねる等)、毎日の生活について述べる、誰かを誘う、家族について話すといった日常的なテーマや機能が中心で、葛藤の起因となるような出来事は最終課(L12「病気」)まで存在しない。一方、『げんき II』では、忘れ物をする、泥棒に入られる、急に仕事が入るなど、状況設定が日常から非日常や社会(アルバイト先や職場)へと広がるとともに、自身の意向に相反するような不都合な状況やそれらを説明する際に用いる文法(受動構文、～てしまう、使役受動構文など)が履修項目として積極的に取り入れられている。また、『とびら』では、特定の日本文化のテーマとともに、課ごとに言語機能としての目標が定められており、特に謝罪を扱う第2課では、相手に不都合を来したことに対する謝罪に添える理由として、避けられない(なかった)(あるいは仕方がない[なかった])状況が設定されている。なお、同じく『とびら』では、論理的で記述的な文章が増えるとともに、上級レベルに向けて客観性のある硬い文体を使いこなすスキルも重視されるようになる。言語機能としても、相手に何かを説明する、討論で論理的に意見を交わすといったタスクが増え、個人的な葛藤が生じるような状況やそれについて話すという設定は少ないようである。ただし、フォーマルなインタビューや依頼に用いる、婉曲的な意見の述べ方や頼み方に用いる言い回しが積極的に取り入れられるようになり、間主観的(つまり、相手を意識した)な発話が求められてくるようである。

また、物語コンテクストを通して、話の設定や人物の特徴が情意表現の表れ方と密接に関係し得るということも見えてきた。例えば、最も少なかった語彙の情意表現は、『トトロ』と『耳』の3例(いやだ、困るよ、怖くて怖くて)であったが、いずれも子供(または中学生)が気の置けない相手との会話で発した率直な言葉である。『半沢』でこのような語彙による感情の明示が見当たらないのは、銀行という組織で共通の利潤を追求するもの同士のやり取りが多い中、個人の感情よりも客観的な判断や相手に働きかける発話が期待されるためかもしれない。しかし、言うまでもなく、場面設定や話者の特徴と、言語表現の特徴の関係を体系的に把握するには、さらなるデータが必要である。

なお、本稿では情意表現を形式の特徴をもとに分類したが、実践に向けては、表現同士の組み合わせや共起関係も考慮すべきである。例として、語彙の使用状況に関する結果の中には、実際は、大人による語彙表現の使用例(8cの困りましたね、8eの寂しくなるわね)も教科書(『げんき II』)に見られたが、いずれも終助詞～ねによって感情を共有する形で用いられていた。したがって、明示的な語彙表現を用いて否定的な心情を表すことが避けられるべきだというわけではなく、会話の相手との関係や共有したい感情を意識しながら、自然な語用を促すような指導が必要であると言える。

最後に、文法を通しての情意表現は、義務や遺憾を表す助動詞、なきゃ(なくちゃ)やしまう(ちゃう)に集中し、少なくとも本稿で扱った素材については、表現形式のバラエティーは決して豊富であるとは言えない。しかし、同じ文法形



式が、様々な状況で使われている例は、有益な学習材料となるであろう。例えば、～しまうは、話者の残念な気持ちを表すだけでなく、(6)のように、誰かに迷惑をかけた時などに、不可抗力であったことを示しつつ詫げる気持ちを表すという、間主観的な役割も果たし得る。また、～なくちゃは、本稿で扱ったような、避けられない状況で使う事も出来れば、私も頑張らなくちゃ(『とびら』)、早く元気にならなくちゃね(『トトロ』)といった軽い意味でも使われる。

また、上述の表現形式のバラエティーに関しては、第2節で紹介したように、避けられない心情を表す文型は、今回のデータに登場したもの以外に豊富に存在する。授業でそれらを役立てる方法としては、物語中に表れる状況やあらすじを第三者の視点から説明するといった活用法(例:半沢は巨額な損失の責任を取ることを余儀なくされた、謝罪せざるを得なかった、等)も考えられるであろう。

## 7. まとめと課題

以上、アニメとドラマ計3作品から<避けられない状況>を取り出し、日本語教科書との比較を通して、情意表現の特徴付けと考察を行った。これらの作品には日常的な状況のみならず、人物間の摩擦や予期せぬ事態など、ドラマ性のある出来事が引き起こす様々な性質の葛藤が存在する。また、それらに関わる言語表現も、特に隣接表現においてバリエーションの幅が広いことが窺えた。これらをもとに、情意表現を理解するには、話者が自分の気持ちや態度を他人とのやり取りの中でどう折り合いをつけているか、つまり、主観から間主観への広がりとして多角的に考える必要があると言える。一方、日本語学習者に特化された教科書の多くは、学習者に関連付けやすいテーマを取り入れながらも、機能というレベル(依頼する、謝罪する、意見を述べる等)をもとに目標が定められる場合が多い。機能から発話へと導く方法の効果も無論否めないが、物語素材を取り入れることによって、場面や状況というより広い単位をベースに感じ方や表現の選択肢を探るのも有益な学習方法となるのではないだろうか。情意の表現は特に個人差の大きい領域である。気持ちや態度の性質、それらを示す方法、示す行為自体の有無は人それぞれ異なる。また、母語話者より感情表現が豊かな非母語話者も少なくないであろう。以上を踏まえ、日本語の授業では語彙と文法のみならず、隣接表現も視野に入れた幅広いタイプの発話行為や言語形式を認識させていくと同時に、学習者の発想や創造的な表現にも耳を傾ける姿勢も肝要であると考えられる。

また、本稿に関わるデータ化の作業を通して、テキストを読み込んで状況を取り出すという作業がいかに複雑であるかを再認識した。何を以って「状況」とみなすか、ある状況を「避けられない」とするかどうか、誰の視点で不都合なのかといった判断が難しいケースが多数出てきた。今回は、筆者のみが極力一貫性を持たせて判断とコーディングを行ったが、今後は、複数の日本語話者の判断をもとに、より客観的な記述作業を行いたいと考えている。最後に、本稿はあくまでも特定の素材を扱うことによって物語を言語学習に活かす可能性を探るための試みであり、生教材の特徴を一般化するものではなく、既存の日本語教科書を否定するものでもないということを記しておきたい。今回紹介した分析の過程が、両タイプの素材の利点を活かすための何らかの貢献になっていれば幸いである。

<sup>1</sup> MAXQDA, software for qualitative data analysis, 1989-2017, VERBI Software – Consult – Sozialforschung GmbH, Berlin, Germany.

<sup>2</sup> なお、分析初期段階では情意表現の分類としてフレーズによる描写と非言語表現も設けていたが、本稿の分析対象に影響しないものとして除外した。

#### 謝辞

本稿に関わるデータ作業の一部は、ミドルベリー大学 Digital Liberal Arts Summer Fellowship と Faculty Research Assistant Fund の助成を受けて可能になった。作業の初期段階で Alicia Peaker, Ryan Clement, Anne Knowles, Jason Mittell, Ethan Murphy よりプロジェクトの概念化やデジタル技術に関する有益なアドバイスを、データ化には Miki Arakaki, Brenna Roets, Trenton Baker, Derek Ding, Shane Healy Yuki Lou, Jackie O'Connell の協力を得た。この場を借りて感謝を申し上げたい。

#### 参考文献

- 岡まゆみ・筒井通雄・近藤純子・江森祥子・花井善朗・石川智（2009）『上級へのとびらーコンテンツとマルチメディアで学ぶ日本語ー』くろしお出版
- 友松悦子・和栗雅子・宮本淳（2010）『どんなときどう使う日本語表現文型 500—日本語能力試験 N1~N3 の重要表現を網羅』アルク
- 馬場順子（2011）日本語教育における「情意表現」習得理論と教授法への応用—擬情語を中心に— Journal CAJLE
- 三枝令子・中西久美子（2003）『話し手の気持ちを表す表現 —モダリティ・終助詞—』スリーエーネットワーク
- 靱山洋介（2014）『日本語研究のための認知言語学』研究社
- Banno, Eri, Ohno Yutaka, Yoko Sakane, Chikako Shinagawa, & Kyoko Tokashiki. (2011). Genki I: An Integrated Course in Elementary Japanese. Tokyo: The Japan Times.
- Banno, Eri, Yoko Ikeda, Yutaka Ohno, Chikako Shinagawa, & Kyoko Tokashiki. (2011). Genki II: An Integrated Course in Elementary Japanese. Tokyo: The Japan Times.
- Hopper, Paul and Elizabeth C. Traugott. (1993). Grammaticalization. Cambridge, UK: Cambridge University Press
- Maynard, Senko. K. (1993). Discourse Modality: Subjectivity, Emotion, and Voice in the Japanese Language. Amsterdam; Philadelphia: J. Benjamins Pub. Co.
- Ochs, Eleanor. & Bambi Schieffelin. (1989). Language has a heart. The pragmatics of Affect. In E. Ochs (Ed.), Special Issue of Text 9: 1, 7-25.
- Suzuki, Satoko. (2006). Emotive communication in Japanese: An introduction. In S. Suzuki (Ed.), Emotive Communication in Japanese, 1-13. Amsterdam, Netherlands: John Benjamins.
- Sweetser, Eve. (1990). From Etymology to Pragmatics: Metaphorical and Cultural Aspects of Semantic Structure. Cambridge, UK: Cambridge University Press.
- Talmy, Leonard. (1988). Force dynamics in language and cognition. Cognitive Science 12. 49-100.
- Talmy, Leonard. (2000). Toward a Cognitive Semantics, Volume I: Concept Structuring Systems. Cambridge: MIT Press.